

# 月刊島民

中之島

Vol.42 2012 1/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)

橋を渡る人の「街事情」マガジン



ナカノシマ大学

「すごいぞ!大阪の鉄道」

黒田一樹

(中小企業診断士・鉄道愛好家)

申し込み受付中!

島民が語る  
2012年。

# 展



中之島の新たなシンボルとなりそうな、中之島フェスティバルタワーは、今年の10月末に竣工予定。「来る島民」増加への期待も大きい。

# 経

新春トーク①

## 島民にとっての2012年は？ 齊藤成人

### 「働く島民」 大阪経済は厳しい局面。

2012年はこの中之島エリアで「働く人」にとって良い年となるだろうか。残念ながら、ギリシャ危機から始まった欧州の経済危機は、決して対岸の火事などではなく、今年になって、この中之島にもじわじわとその負の影響が及んでくるだろう。貿易統計をみても、既に関西の輸出額はここ数ヶ月マインス基調に転じている。主に欧州向け輸出の落ち込みが原因だが、今後は

関西にとって稼ぎ頭だったアジア向け輸出も落ち込んでいくことだろう。欧州の銀行が、自分たちの地域にお金が無くなりつつあるので、アジアの企業から貸し剥がしを行っていくことが予想されるからだ。アジアの企業にお金が無くなれば、日本の製品を買ってくれる人がいなくなるのである。

大阪湾は別名「パネルベイ」とも言われる日本におけるパネルやバッテリーの製造拠点であり、ここ数年の関西経済をリードしてくれている。堂島川や土佐堀川でつながっているこの中之

島には、そうした製造拠点のバックアップとしてのオフィスが多数集積している。そのため製造拠点がピンチになると、当然オフィス部門にもしわ寄せがくる。中之島で「働く人」にとっては、2012年はそうとう厳しい年になっていくだろう。

### 「住む島民」 ますます便利な中之島に。

一方、中之島に「住む人」にとっては、そう悪い年ではないかもしれない。中之島を含む中央区と北区の人口は計19・4万人と、大阪24区中でトップクラスの増加率を示す人口増加地区である。10年前と比べ4万人も人口が増えた。この原因の一つが、京阪電車中之島線開業、そしてそれを契機に新設されたマンションである。そのために、中之島は夜間や休日にも人がいるエリアへと変貌しつつある。人が増えるとお店も増える。

この新住民をあてこみ、今、中之島のオフィス街のビルにはどんどんスーパーが開店している。こうした店舗の出店が可能となったのは、皮肉にも金融危機によって金融機関の店舗が統廃



さいとう・なるひと  
日本政策投資銀行関西支店企画調査課長。  
国内経済発展のための投資・融資の一体型金融サービスを提供するほか、地域経済の動向にも注目。情報発信なども行っている。

合された結果、中之島のオフィスのビルが空いたことにある。

2012年に入っても中之島へのマンション新設は続くうえ、空いているオフィスビルにさらにスーパーが新規に出店してくることだろう。住む人にとってはますます生活が便利になっていくに違いない。

### 「来る島民」 ゆとり過こせる場所へ。

実はもともと恩恵を受けるのは、中之島エリアに「来る人」ではないだろうか。オフィスが空くと、食品を扱う日用品店舗の次は、アパレルやレストランといった嗜好品店舗が進出する。中之島にもおしゃれなカフェやアパレルがずいぶん増えてきた。混んでいる梅田を避け、中之島でゆとりと買い物する方が良く人々は気づくだろう。買い物後、京阪電車なにわ橋駅あたりから見る中之島のスカイラインは大変美しい。このスカイラインに、今年10月には新たに中之島フェスティバルタワーが加わる。同ビルにはホールも併設され、「来る人」にとって中之島は魅力的な地域になるだろう。



職

人の手仕事を大阪から見直す

## メイドイン大阪ラボ 岸本知子さん(丸善ボタン)

大阪に残る職人ならではの質的な手仕事を発掘・紹介しようと、「メイドイン大阪ラボ」を仲間と立ち上げ、昨年初めて展示会と工房ツアーをやりました。まずは上町台地や天満を歩きましたが、発見の連続。布に花柄をプリントする技術で有名な工房が近所にあたり、東成が帽子の一大産地だったり、提灯や和楽器の工房を訪ねた天満が、実はガラス産業発祥の地だったり。こうして出会った工房や職人さんをつなぎ、コラボやブランド化、販売まで進めるのが目標です。

ボタンを専門に扱う私の会社で言えば、靴工房とのコラボで革地にボタンをあしらったバッグを売り出したり、チョコレート専門店と協力して、ボタンをデザインしたギフト用チョコを作ったりしています。今年は帽子や布、染物など、「糸へん」の工房とコラボしたいですね。何ととっても大阪は繊維の街ですから。



### メイドイン大阪ラボ

丁寧な手仕事から生まれた日常使いの良い品を大阪の街なかで発掘・紹介し、職人の技術をつなぐプロジェクト。岸本さんは、天満橋・北大江の「たそがれコンサート」実行委員でもある。問い合わせは丸善ボタン ☎06-6942-2261

# 街のキーマン、今年の抱負。

中之島周辺を盛り上げてくれている街のキーマンたちに、あたためている企画や野望・展望を聞いてみた。  
今、街と積極的に関わろうとする人たちは、どのように考え、行動し、実現しているのだろうか。

取材・文／松本 創 李 宗和(以上本誌)

## みんなの不動産 末村 巧さん

今年は「2nd Cycle (セカンドサイクル)」をキーワードにしたいと思っています。いたずらに新しい物を求めるのではなく、いい物を手直して長く使う。不動産で言えば、築数十年のビルや中古住宅など、街なかに眠る良質のストックを再評価し、キッチンや照明、事務所家具も含めて使い方やライフスタイルを提案していく。例えば今、堂島の「永和ビル」をリノベーションし、シェアオフィスとして貸し出すプロジェクトを「みんなの不動産」で進めています。そういう手法をもっと広げたい。

先日、船の上から水辺のビルを見て回る「水辺不動産クルーズ」を初めてやってみたんですが、中之島界隈には、使われていない良質の物件がまだまだ思った以上に残っていました。新築物件は最新の設備や機器を売りにするけど、それはやがて陳腐化する。そうではない価値を見出していく時代だと思うんです。



### みんなの不動産

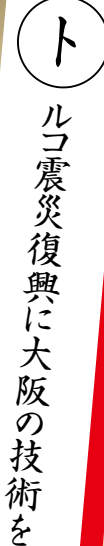
よくある均質で画一的な不動産情報ではなく、シェアOK、リノベーション、水辺…など、「売れ筋ではないが、使い方によれば素敵な暮らしが実現する物件」を大阪で発掘し、紹介するグループ。☎06-6314-6408 物件情報はサイト <http://minfudo.com/>で。



い

ビルを長く使い続ける時代に





日本では昨年、東日本大震災がありました。私の故郷トルコも地震国。10月に東部で大地震があり、11月の余震では、救援活動の日本人男性が建物倒壊で亡くなりました。「支援に来てくれた人が犠牲になるなんて…」とトルコ国民が大きな衝撃を受けた。この件をきっかけに、トルコの住宅の耐震性を高めるプロジェクトを考えました。日本企業の高い技術力を活かしてもらおうと、セミナーや商談会の準備を進めています。

ベリーダンス、料理、トルコ語を3本柱に、さまざまな講座・イベントでトルコと日本の文化・人をつないでいる。教室兼事務所は天満橋。建設企業向けセミナーは、今年中にまずトルコでの開催を目指すという。

☎06-6358-1201

も  
つと開かれた場所にしなければ



# 水川の上から見た、「水辺」のこれから。



なかのひろし  
御舟かもめ船長。折り畳み自転車と組み合わせ「クルーズボタ」や物件案内を行う不動産クルーズ、茶の湯に触れる「船上茶会」など、小さな船ならではのひと味違うメニューが人気。  
<http://www.ofuna-canonet.net/>

小型クルーズ船「御舟かもめ」の運航を始めてまもなく3年が経つ。広めのウッドデッキと小さな建屋を備えた、10人乗れば満員という小さな船。「川に浮かぶ小さな家」と名乗りながら「朝ごはん」や「うたたね」「土木」「バー」といった他にはないメニューで、中之島や道頓堀などあちこちをクルーズしている。

多種多様な楽しみ方が登場してきた。日本のあちこちで「水都」を掲げているような活動が盛んだけれど、このバラエティの豊かさは大阪ならではだ。  
**ハードとソフト、両面の進化。**

水辺を取り巻く様々な活動が目立つようになってきたのは2000年代の前半ごろ。川に台船を浮かべた水上カフェや水上タクシー運航といったイベントや社会実験が、都心部のあちこちで開催された。どの企画も「水辺、い

ね」と気づいた市民やNPOなどの団体が、それぞれ「水辺を楽しむ方法」を表現したものであった。こうしたバラエティに富んだ楽しみ方が、「水辺」をキーワードとした試みの下地となった。

同時に船着場や中之島公園の整備、橋梁のライトアップといったハード面の整備も充実してゆく。そんな中で個々の人の動きが水際に新たな風景を生み出す例も登場する。土佐堀川沿いに並ぶ「北浜テラス」は、地元の方々とNPO・行政が協力し、イベント時の期間限定ではなく「常設」の川床を実現した。

こうした数々の動きは「水都大阪2009」を始めとする一連のイベントで一つのピークに達した。市民参加型で開催されてきた効果もあって、休

日などに「水辺で過ごす」というスタイルはすっかり浸透したようだ。船の上から眺めているとよく分かる。中之島の水辺から手を振ってくれる方の増えたこと、街なかのクルーズの楽しみは「乗り合わせた人同士、そして岸にいる人とのコミュニケーションです」と常々ガイドしている私としては、嬉しいところだ。

## 「水辺」のこれから。

御舟かもめにやってくるお客様を見ていると、十人十色の楽しみ方をして、感動しているのが面白い。高架道路の風景を追う方もいれば、手作りのアテでワインに興じる方もいる。誰かが「味付け」した既製品ではなく、自分好みに「味付け」して楽しんでいる様子だ。こちらも負けじと様々な企画を続けている。「小皿」だけれど色々な「味」を試せる場所でありたいと思う。

水辺には、ゴキゲンに過ごすお膳立が整いつつある。周りを見渡して「あれ気持ちよさそう、楽しそう」「じやあこうやってみよう」と言っている間に、中之島の毎日はずっと面白くなっているのではないだろうか。

# 事



【御舟かもめ】は10人ほどで満員となる小さな船。ナカノシマ大学の昨年8月の水上講義でもご登場いただき、大好評だった。



## graf 服部滋樹さん

去年末からですが、grafのテーマ発信として利用していた「graf bld.」の1階スペースが、生産者から広がる人の繋がりや関係性、それにまつわる商品や商材を紹介していく企画でスタートしました。季節や時期によってテーマや食材を変えて、それに沿ったレシピの提案や、調理器具の販売、イベントも行います。農業体験のワークショップなんかも充実させたいですね。

これは3年くらい前から、自家菜園をつくったりマルシェのプロデュースをさせてもらう機会があった中で、食と人のつながりの重要性を再認識したことがきっかけです。また、震災のこともあり、「つくって、食べて、美味しい」っていうのは暮らしにおいて本当に重要なことなんだと感じています。住宅、商業施設のデザインももちろん大事ですが、「食」からはじまるコミュニケーションをより良くすることに今非常に興味があり、その部分に力を入れていきたいです。



### graf

大阪を代表するデザイン集団。拠点となる中之島の[graf.bld.]はカフェダイニングなども併設する。コンセプトが変わった1階スペースの気になる1月のテーマは「お米」と「お祝い」。☎06-6459-2121

## 中

之島の「食」をハッピーにデザインしたい



## 街

道歩きで地域の魅力を探します



## バード・デザインハウス 竹岡寛文さん

本職はデザイナーですが、学生の時に街道歩きの魅力にとりつかれて以来、時間を見つけて街道歩きのイベントなどを行っています。去年は島民さんにも紹介いただき（2011年7月号）、興味を持たれた方から、「次はいつ？」という問い合わせも受けています（笑）。街道歩きの魅力は人間のスケールでつくられた風景がどんどん変化していくこと。道があり、人の手による建物や史跡があり、その向こうには山や空がある。風景の展開がダイナミック。ネイチャーウオークとは違う街道ならではの醍醐味があります。

今、最も歩きたいのは熊野古道です。かつて参詣道の起点として賑わった天満橋から熊野へ。何日かに分けて歩いてみたいと考えています。また、近日中の具体的な活動としては2月3～5日に行われる「オープン台地 in OSAKA」というイベントで、上町台地の地下をめぐるツアー（詳細は<http://uemachi-hope.net/open-daichi/>）を行うので興味ある方はぜひどうぞ。



### 竹岡寛文

天神橋にあるデザイン事務所に勤務。学生時代に卒論のために東京・日本橋～京都・三条間540kmほどの中山道を3週間かけて踏破。それをきっかけに、街道歩きの魅力をツアーイベントなどでシマから発信している。



# 建築家・高岡伸二さんに聞く 街の「お世話役」心得。

取材文／大迫力本誌

仲間と結成したBMC（ビルマニアカフェ）では、好きが高じて雑誌『月刊ビル』を創刊。また、ビルの建設中の記録映像がたくさん残されていることに気づき、その普及と保存を目指すべく立ち上げた「UCFA（Under Construction Film Archives）」さらに講師を務める大阪市立大学が船場の街を舞台に開催する「まちのコモンズ」、同じく船場では大阪市のHOPEゾーン事業のアドバイザーでもあり、戦後建築マップの作成に協力したり。もちろん、「本業」である建築家としての仕事もある。一体、どんな面白さや苦労があるのだろうか。



## UCFA

建築史家の橋爪紳也氏をはじめ、建築家、編集者らで組織。建設会社が記録していた映像を上映し、その価値を訴えるシンポジウムなどを開催することで、保存を進める。将来的には映像をアーカイブ化する構想も。

<http://ucfa-jp.blogspot.com/>



## BMC（ビルマニアカフェ）

さまざまな職種を持つ5人によって結成。ビル堪能雑誌『月刊ビル』（実際は季刊）の発行や、「ビルは使ってなんぼ」の信条から、味園ビルを使った盆踊りイベントまで企画。パワフル！

<http://bldg-mania.blogspot.com/>



## まちのコモンズ

大阪市立大学都市研究プラザが街と協働して開催する、北船場を舞台に開かれるイベント。トークショーやビルの見学会、餅つきまで多彩すぎるプログラムで街や人の魅力を伝える。毎年11月に開催。



## Q きっかけ

BMCやUCFAの場合は、もともと好きな者同士が集まって、という感じですね。ビルや建設映像など、「こんなにすごいものを放っておくのはもったいない」と思ったことが活動を始めるきっかけになりました。

## Q ねらい

『月刊ビル』にしても、UCFAで開催している上映会「ニッポン建設映像祭」にしても、目的はそれを開催すること自体ではありません。それをすることによって、古いビルや映像の価値を知ってもらえれば良いと考えているんです。建設映像なんて、実はまだまだ埋もれているものがたくさんある。同じ価値観を一人でも多くの人に共有してほしい。ことで、保存や活用につながってほしい。

## Q 継続性

いろんなイベントに関わっていますが、失敗したと感じたことはあまりありません。先ほども言ったように、イベントをすること自体が目的ではない、ということと関係があるのだと思います。ただ、それがビジネスになり、そのことによって利益を生み出そうとするとしんどいですよね。イベントはあくまできっかけで、そのあと何につながるのが大切。

## Q 趣味か仕事か

よく「趣味か、仕事か」と聞かれますが、そんなことはどちらでも良いと思っています。活動に関わっていることで、設計のアイデアにつながったり、仕事のチャネルが増えたりすることもありますし。

## Q 醍醐味

やっぱり、ビルなどにぜんぜん興味がなかった人に来てもらって、好きになってもうえと嬉しいんです。でも、基本は自分の住んでいる街が少しでも住みやすくなるような活動に関われているということが重要なのだと思います。自分の日常や人生が気持ち良いものになれば良い、そう思っていてやっています。



# 現場「場」づくりを続けるためには。

山納洋

参加者交流型サロン企画「トーキンアバウト」、カフェ空間のシェア活動「コモンカフェ」、市内のカフェ・ギャラリーでの講座・ワークショップの情報発信「大阪カルチャークラスター!!」(P11) など、街なかに学びや出会の場を作り出すという取り組みを、もう10年以上も続けている。

僕が手がける場の多くは、せいぜい数十人が集まる程度のこじんまりしたもの。大きく経済を生み出すというよりも、参加する人たちが本当に楽しめる場をきちんとカタチにする、というあたりにこだわっている。参加者が4〜5人しかいなかったとしても、参加した人たちが満足できる内容であれば、「とても有意義でした」と後からブログで発信してみんなを悔しがらねばいい、ぐらいの構え方なので、続けていくことに苦勞を感じることはあまりない。

## アウトプットのためのインプット。

「場」づくりにかかわる人の中には、インプットに重きを置く人と、アウトプットに重きを置く人との違いがあるように思う。とにかくいろんな人と出会って、いろんなこ

とを吸収したい。だから場をつくりたいという人と、いろんな世界を見て、いろんな経験を積んだ後に、そのことを誰かに伝えたいという思いから、場をつくる人。あちこちの現場を見てみると、インプットに軸足がある人の中には、場を通じて自分の中に新たな可能性を見出したり、ある程度知り合いが増え、いろんな情報が入ってくるようになってきた段階で、活動を終息させていく人が一定おられるように思う。自分が作ってきた場から、自分自身が卒業していく、という感じだろうか。

僕自身の軸足は、基本的にはアウトプットにある。なので、あまりテンションの上がり下がりはなく、活動は自然に続いているのだが、最近はアウトプットの場をつくり、そこに向けて無理矢理インプットする、という営みを楽しむようにしている。『月刊島民』編集発行人の江弘毅さんと2年前に始めた哲学サロンでは、これまでにブルデュー、レヴィナス、フーコー、レヴィイストロースらの難解なテキストに挑んできた。この苦行にも似た取り組みを支えているのは、インプットの快樂と、アウトプットの快樂の両方。単



やまのう・ひろし  
インフラに関わる本業かたわら「コモンカフェ」を主宰。「トーキンアバウト」は、淀屋橋OBB内のアイ・スポットで月例開催中(P13)。地域コミュニティとしての喫茶店研究もライフワークとして継続中。



アイ・スポットでの「御堂筋トーキンアバウト」には、いろいろな職種の人が意見交換。



中崎町の「コモンカフェ」では、紅茶教室など多様なイベントが。

にアウトプットだけだとつまらない。自分が「お留守」になっている感じがするのだ。

今、司馬遼太郎さんの「街道をゆく」にハマっている。全43巻。日本の歴史・地理・文化・宗教に通暁した司馬さんが、個人に、そして個人が織り成す社会に向けるまなざし、そして事実よりもむしろ物語としての歴史を語るといふスタンスに強く惹かれる。この壮大なインプットの先に、どんなアウトプットを用意しようかと企んでいる。



ナカノシマ大学  
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の  
懷徳堂  
プロジェクト

「上品」の阪急  
マルーン色の電車でおなじみ。



新旧共存 南海  
難波駅と汐見橋駅の  
対比を見よ。

諸君、鉄分は  
足りているか？

◎今月の授業

# 鉄道



ザ・技巧派 京阪  
5扉がすごい5000系。



旅情たっぷり 近鉄  
みんな大好き近鉄特急。

2012年2月講座

## 「すごいぞ! 大阪の鉄道」

講師／黒田一樹(中小企業診断士・鉄道愛好家)

京阪・阪急・阪神・近鉄・南海・JR…

その違いを、電車・駅舎・時刻表などから  
独自に分析した「キーワード」で読み解く!

古くから鉄道好きの間で、大阪・関西が「私鉄王国」と呼ばれていたことをご存じだろうか。京阪・阪急・阪神・近鉄・南海と、個性も歴史もぜんぜん違う鉄道会社が群雄割拠する様は、東京はおろか日本全国を見渡してもそうそう見当たらないくらいに面白いのだ。

加えて、それらの私鉄のターミナルが位置する大阪は、それぞれの沿線ごとに独自の文化が育まれてきた。どの鉄道を利用しているかが、その人のパーソナリティの指標になっていたり、沿線の自慢話を自嘲混じりに言い合うのが、大阪の人たちは大好きだ。

東京在住の鉄道愛好家の視点から、この「王国」を羨ましく見つめるのが、月刊島民の鉄道ご意見番としてもおなじみの黒田一樹さん。日本を飛び越え、世界各国の鉄道に乗る道楽者をして、「大阪は世界でも有数の個性派鉄道都市。東京

ではあり得ない」と舌を巻かせしめる。

現在、大阪では私鉄のほかにJRも加わり、熱い競争が繰り広げられている。そんな状況もまた、「鉄道王国の文化の豊かさにつながっている」と黒田さんは指摘。一体、どこがそんなに珍しいのか？

電車や駅の構造といった私たちにもおなじみのものから、駅名標示・時刻表・車内アナウンスなどマニアックな部分から導いた独自のキーワードから、大阪の鉄道の面白さを解説します!

黒田一樹

東京在住の中小企業診断士。『店長入門』(織研新聞社)など本業にまつわる著作もあるが、京阪電車80形の保存に尽力したり、世界152都市中80都市で地下鉄に乗ったりと、無茶な発想と行動を愛する鉄道道楽者。特集のメイン企画執筆を手がけた『大阪人』『鉄道王国・大阪』は重版の大ヒット。



### 「すごいぞ! 大阪の鉄道」

講師／黒田一樹

日時／2月22日(水) 7:00PM~8:30PM(開場6:30PM)

会場／中之島デザインミュージアム(中之島パルクス)

受講料／1,500円

定員／50名

主催／ナカノシマ大学事務局

協力／大阪21世紀協会

募集要項

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階  
「ナカノシマ大学2月講座」受付係 FAX.06-4799-1341

※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。

※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは  
こちら!→



お問い合わせ ☎06-4799-1340  
(ナカノシマ大学事務局)



2011年11月24日(木)

## 「大阪の神さん、仏さん〈仏さん編〉その2」

@追手門学院 大阪城スクエア

対談／釈 徹宗(浄土真宗本願寺派住職)

高島幸次(大阪大学招聘教授／大阪天満宮文化研究所員)

昨年1月から始まった釈徹宗先生と高島幸次先生の対談シリーズ、神仏両道から大阪を読み解く「大阪の神さん、仏さん」。5回目の開催となる〈仏さん編〉その2で、最終回を迎えた。今回は大阪の商業的発展を語る上で欠かせない仏教宗派「浄土真宗」に的を絞られ、いよいよ宗教都市大阪の核心へ迫った。

釈先生は最初の基調講演で、「真宗の最大の特徴は寺内町という宗教都市を独自で形成したこと。そして大阪を行き交った海民・山民、特殊技能民ら非定住民も巻き込んで浸透し、経済ネットワークとともに全国へ広がっていったこと」と、大阪各地に生まれた寺内町の勢力を強調。宣教師の書簡や『信長公記』、



頼山陽の文献などを参考に、現在の大阪城にほぼ重なる位置にあった「大坂本願寺」をメッカとして、浄土真宗がいかに大阪の経済発展の「起爆剤」となり、現在に受け継がれる大阪人のエートスに影響を与えてきたか読み解いた。

また、江戸期においてほぼ100%が真宗門徒であった船場の街についても言及。「商人たちの使う言葉は、独自の美学や倫理を持つ真宗信徒の誇りの表れでした」と、船場が舞台の映画『暖簾』を上映。高島先生も「これほど完璧な船場言葉は聞いたことがない」と唸っていた。

さらに「真宗と資本主義思想を生んだプロテスタントは共通点が多いんです。脱呪術的で独自の商業倫理をもって仕事に励む、真宗僧侶も牧師も同様に家庭をもつ点も似ています」と、大阪が独自の経済発展を遂げることできた理由を釈先生流に分析した。

そ

して後半、高島先生との対談へ。高島先生は寺内町の最大の特徴を、「信仰」という意思の力、軍勢力、経済力が合わさった共同体であった点に置いた。「もともと皆の条件を備えた大坂本



船場と浄土真宗の関係性を知るために、釈先生が持参した映画『暖簾』。全員でじっと見入っていた。

最後に高島先生は「今、宗教を考えることは最高におもしろい。我々は何を求め、どう生きていけばいいのか。講座が終わっても、書店の宗教コーナーへはぜひ足を運んでください」と、釈先生の著書を紹介も含めた挨拶で、会場の笑いを誘った。



願寺は、寺内町の力がフルに発揮された場所なんです」と講義の内容を受けつつ、「江戸幕府は大坂に藩を置かなかった。この歴史の偶然によって、大阪らしさとその繁栄の歴1日まで持続する結果につながったんでしょう」と分析した。

最終回にふさわしく、テーマは現代宗教のあり方へ。釈先生は「現代の不景気や東北の震災を受け、仏教の世界も曲がり角に来ていると感じます。しかし、ユニークなお寺や住職も誕生していて、日本の仏教は今、面白いと言えます」。高島先生も「今ほど書店の仏教書コーナーがおもしろいことはなかった。みんな、真剣。宗派・宗教をこえた対話ができる時代です」。まさしく大阪の神さん仏さんの語り部たちが、宗教を超えて語り合う様子を目の前にして、受講生たちも深く納得。

最後まで豊富な知識と軽妙なコミュニケーションで受講生たちを驚かせ、笑わせてくれたお二方の、まさに大阪の宗教性を体現したような毎回の講座は、大きな拍手に包まれひとまず幕引きとなった。

コーディネーターでもあった釈先生からは「最初はゲストとしてご登場いただいた高島先生とお話がおもしろく、気づけば早5回。本当に楽しいシリーズでした」と感謝で締めくくった。





# 21世紀の懷徳堂プロジェクト

## 1月の時間割

ナカノシマ大学ほか、  
中之島周辺の「学びの場」の時間割をご紹介します。

◎21世紀の懷徳堂プロジェクトとは…

ナカノシマ大学が、(財)大阪21世紀協会、大阪大学、大阪市と連携しながら、  
大阪の街に「市民が学ぶための場所」を広げていくためのムーブメントです。



## 大阪カルチャークラスター!!

大阪カルチャークラスター!! (OCC!!) では、大阪にあるカフェやギャラリーなどで独自に企画・運営を行っている  
講座・ワークショップを一堂に集め、紹介していきます。

※大阪カルチャークラスター!! (OCC!!) では、参加店舗を募集中です。お問い合わせはsingles@do.ai (common café) まで。

|       |     |                                                 |                                                                                                                                                                                                        |         |
|-------|-----|-------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|
| 7     | 土   | 8:00AM~<br>10:00AM~<br>2:00PM~<br>4:00PM~       | 「中之島の水辺で水上さんぽ」奥谷 崇(水辺ガイド) 参加費:3,000円(レンタル一式+保険+協力金)<br>☆毎日開催☆年中楽しめる!バドルボード!バランス感覚が身に付きエクササイズにもオススメ!(約1時間)                                                                                              | 会場<br>D |
| 14    | 土   | 11:00AM~<br>1:30PM                              | 「英米文学のおいしい時間:フェアリーたちと迎える新年」武田雅子(英米文学)・中東ゆうこ(料理担当)<br>料金:3800円(テキスト+クリスマスランチ付き) 英文学のあちこちに顔をのぞかせる妖精たちを追っかけて~「フェアリー・ラン<br>チ」もお楽しみに♪                                                                       | 会場<br>F |
| 14    | 土   | 2:00PM~<br>4:00PM                               | 「初心者のための 絵画塾~オイルパステル」柿坂万作(画廊喫茶フレインハウス店主) 受講料:2,500円(画<br>材費込み) 絵の基本を学びましょう。オイルパステル(クレパス)を使って身近な静物を描きます。エプロン、手ぬぐいをお持ち下さい。                                                                               | 会場<br>E |
| 15    | 日   | 2:30PM~<br>4:30PM                               | 「ワイン講座 ~ブルゴーニュ パート2」N.Lee(ボンパール江戸堀店主:ワインコーディネイター)<br>受講料:3,500円 ソヌ河を遡るワイン紀行の2回目。さらに充実のワインナリご紹介。4種ほどテイastingを。                                                                                          | 会場<br>E |
| 18    | 水   | 7:00PM~                                         | 「聴いて読む&洋書絵本を読む」山崎一郎(翻訳家) 参加費:1,500円(お茶付き)<br>今回は、アンソニー・ブラウン著『Shape game』を読む予定です。                                                                                                                       | 会場<br>G |
| 21・22 | 土・日 | 10:30AM~                                        | 「食べられないお菓子なワークショップ#01『チョコレートのカード作り』」井出由希子(お菓子なクラフター)<br>参加費:1,800円(材料費+紅茶とチョコレート込) 食べられないチョコレートやアンティークスイーツチケットなどをコラージュしたメッセージカー<br>ドを作ります♪詳細はHPにて*ボードに立ってバドルを漕いで進む水上さんぽ。バランス感覚が身に付きエクササイズにもオススメ!(約1時間) | 会場<br>B |
| 21    | 土   | 2:00PM~<br>4:00PM                               | 「工作教室Coppa!! ストローで立体モビールをつくらう!」ムラバヤシケンジ(アーティスト) 料金:1,500円<br>色んな色のストローを組み合わせて、きれいな立体模様のモビールを作っちゃおう!                                                                                                    | 会場<br>C |
| 22・25 | 日・水 | 22日/11:00AM~<br>2:00PM<br>25日/7:00PM~<br>9:30PM | 「ポーポー屋料理教室『今年こそ、お弁当を作ろう!』」中東ゆうこ(ポーポー屋店主) 料金: 3,800円<br>食べて美味しい~見せて楽しい~お弁当作りが楽しくなる秘訣をお伝えします。生姜みそも作ります。                                                                                                  | 会場<br>F |
| 24    | 火   | 7:30PM~<br>9:30PM                               | 「石原正一のヨミすぎ!~古今東西名作朗読会~」石原正一(役者・作演出家) 受講料:1,500円<br>古今東西の名作を参加者全員で読みまくる夜です。具体的に配役に分けて、名作文章の世界を楽しんでいただきます。                                                                                               | 会場<br>A |
| 28    | 土   | 6:00PM~<br>8:00PM                               | 「ばんどう酒店の日本酒セミナー『冬の日本酒とうまい肴』」坂東武子(ばんどう酒店) 料金:5,000円(日<br>本酒6種+肴着いろいろ) 日本酒の冬の美味しい飲み方をご紹介します。日本酒に合った肴着の数々も紹介。                                                                                             | 会場<br>F |
| 29    | 日   | 11:00AM~<br>1:00PM<br>4:30PM~<br>6:30PM         | 「三日月豆の苔玉教室『苔箱庭を作っちゃおう!』」松本佳子(三日月豆・店主) 参加料: 5,000円(箱庭材料<br>+お弁当+お茶) 15cm角の正方形の木箱に、植物と苔と石を使って箱庭を作ります。木箱は焼き板と白と選べます。                                                                                      | 会場<br>F |
| 31    | 火   | 7:30PM~<br>9:30PM                               | 「レヴィニストローズ『野生の思考』を読む」江弘毅(月刊島民編集長)×山納洋(common café) 参加料:<br>1,500円 未開人の〈神話的思考〉の中に近代西欧の〈科学的思考〉とは違う論理性を見出した「構造主義の金字塔」に挑戦。                                                                                 | 会場<br>A |

A common café 大阪市北区中崎西1-1-6 吉村ビルB1F

☎06-6371-1800 <http://www.talkin-about.com/cafe/>

B 雑貨屋Biscuit cafe 大阪市北区中崎西1-9-24 中崎ハウス202

☎090-9254-1223 <http://biscuit-cafe.com/>

C morrison(studio) 大阪市福島区吉野4-20-13

☎080-3113-4816 <http://webmorrison.com/>

D 若松の浜 大阪市中央区南船場2-7-14 大阪写真会館3F

☎06-6125-0550 <http://aquastudio.jp/> ※お問い合わせ:アクアスタジオ

E フレインハウス 大阪市中央区淡路町1-6-4 ☎06-6226-0107

misalele39@gmail.com <http://www.katana.cx/~fureimu/>

F ポーポー屋 大阪市西区北堀江1-14-21 鳥かごビルディング2F

☎06-6531-7827 <http://www.po-po-ya.net/>

G 貸本喫茶ちようぼっこ 大阪市西区北堀江1-14-21 鳥かごビルディング4F

<http://www.geocities.co.jp/chochobock/>



## レクチャー&対話プログラム「ラボカフェ」

読書・哲学・鉄道など、毎月リアルタイムなテーマでカフェ風ワークショップを行っている、  
京阪電車中之島線なにわ橋駅地下1階の「アートエリアB1」。1月のラインアップはこんな感じ。

|    |   |                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----|---|----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11 | 水 | 7:00PM～<br>9:00PM                                        | <b>中之島哲学コレージュ／哲学カフェ「人生って、あつという間？」</b> 定員:50名程度<br>新年も10日が過ぎて、気づけば次の新年がやってきて、また次の新年がやってきて……。そう考えると人の一生は意外と早いと思<br>ってしまいます。そういうわけで、新年最初のテーマは「人生って、あつという間？」です。お気軽にどうぞ。<br>進行役:桑原英之(カフェフィロ) カフェマスター:本間直樹(大阪大学CSCD教員)                                                                        |
| 17 | 火 | (展示プログラム)<br>2:00PM～<br>8:30PM                           | <b>JYORURIカフェ「ぶらり浄瑠璃～おもろいんやな、コレが～」</b> 定員:40名程度<br>大阪のてっぺんにある能勢町で200年間育まれた浄瑠璃に、人形を合わせた「能勢人形浄瑠璃」。今回、大阪大学学生たちの企画<br>のもと、伝統芸能でありながら様々な挑戦を続ける能勢浄瑠璃シアターと協力し、中之島での上演にチャレンジします。人形が、人間<br>以上に人間らしく舞台上で生きる様を、様々な世代の方に楽しんでいただきたいと思います。<br>ゲスト:浄瑠璃シアター、能勢人形浄瑠璃鹿角座 カフェマスター:永田靖(大阪大学文学研究科教授)         |
| 18 | 水 | (展示プログラム)<br>2:00PM～7:00PM<br>(人形浄瑠璃上演)<br>7:00PM～8:30PM |                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 19 | 木 | 6:30PM～<br>8:00PM                                        | <b>研究ときめき＊カフェ「ボツリヌス食中毒の秘密」</b> 定員:40名程度<br>「辛子レンコン」事件で有名になったボツリヌス食中毒は、ボツリヌス菌の出す毒素が引き起こすものです。ボツリヌス毒素はタンパク<br>質の一種ですが、胃腸で消化されず体内に侵入します。この毒素の研究は、食中毒の治療や胃腸粘膜の仕組みにせまるだけでなく、<br>新しいタイプの治療薬の開発へつながる大きな可能性を秘めています。ゲスト:藤永由佳子(大阪大学微生物病学研究科特任<br>教授) カフェマスター:坂野上淳(大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任准教授)       |
| 27 | 金 | 7:00PM～<br>9:00PM                                        | <b>中之島哲学コレージュ／哲学セミナー「高齢者ドライバー問題を考える」</b> 定員:50名程度<br>近年、都市部を中心に、交通事故件数の減少傾向に対して、65歳以上の高齢者ドライバーによる事故件数は増加傾向にあるとも<br>言われています。こうした状況の中、高齢者に対する運転免許返納を推奨したり、強制的に返納させたりすることは、倫理的に妥当<br>なのでしょうか？ 応用倫理学の視点から考えてみましょう。ゲスト:奥田太郎(南山大学社会倫理研究所准教授) 進行役:三浦隆<br>宏(摂南大学非常勤講師) カフェマスター:本間直樹(大阪大学CSCD教員) |

会場／アートエリアB1 参加費／全て無料 当日先着順・入退場自由 問い合わせ／[カフェの内容について]大阪大学コミュニケーションデザイン・センター  
(CSCD) ☎06-6850-6632 [場所などについて]アートエリアB1 ☎06-6226-4006 ※内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。



大阪大学  
21世紀  
懐徳堂

## 大阪大学21世紀懐徳堂

●大阪大学×大阪ガス「アカデミクッキング」[専門分野の講義]&「料理実習」で、学問するココロ、が実践的に身につきます。

|     |   |                   |                                                                                                                                                                                                                                     |
|-----|---|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2/8 | 水 | 6:30PM～<br>9:00PM | <b>「燃える愛～北欧の料理にみる愛のかたち」</b> 古谷大輔(大阪大学世界言語研究センター准教授)<br>古今東西の世界の諸文明で育まれてきた様々な愛のかたち。講義では世界史上に見る愛のかたちを振り返りつつ、調理では皆さん<br>と極北の北欧で食されてきた家庭料理を囲んで、氷雪をも溶かす愛の姿を見てみましょう。<br>◎課題料理／燃える愛(マッシュポテト&ベーコン)、ミートボールのブラウンソース・コケモモジャム添え、えんどう豆のスープ、焼きリンゴ |
|-----|---|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

会場／大阪ガスクッキングスクール千里 申込受付期間／1月7日(土)～12日(木)(web申込受付は1月7日(土)0:00AM～、電話受付は1月10日(火)11:00～  
※申込多数の場合は抽選の上、当選者にのみ1月13日(金)に案内を発送。申し込み・問い合わせ／大阪ガスクッキングスクール千里 ☎06-6871-8561  
<http://www.og-cookingschool.com/>



## 3/23(金)ナカノシマ大学に 中沢新一来る!

ナカノシマ大学に人類学者の中沢新一先生が再び登場!

2010年4月講座「大阪アースダイバーへの道」に続き、大阪について真正面から語る。

週刊現代の連載「大阪アースダイバー」も終盤にさしかかる中、

中沢先生の捉える大阪の都市像はどのように姿を変えたのか。請うご期待!

◎北御堂 ◎申し込み受付は1月下旬スタート! 諸君、刮目して待つべし!





## 淀屋橋odona アイ・スポット通信



3月まで  
毎月開講!

淀屋橋駅直結の複合型商業施設「淀屋橋odona」の2階にある情報発信スペース「アイ・スポット」では、大阪の歴史に関する展示が無料で見られるほか、月刊島民をはじめとするフリーペーパーなど街の情報も集まっています。さらに、毎月さまざまなミニセミナーも開催。会社帰りに、街遊びのついでに、ぜひお立ち寄りください!

### ●大阪大学21世紀懐徳堂 i-spot講座 いろんなものさしシリーズ

|    |   |                   |                                                                                                                                                                                                            |
|----|---|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 27 | 金 | 6:30PM~<br>8:00PM | <b>「戦争にもルールがある—武力紛争の国際法」</b><br><b>和仁 健太郎 (大阪大学大学院国際公共政策研究科・准教授) 定員30名</b><br>「恋愛と戦争においてはすべてが許される」という格言がありますが、国際法には「武力紛争法」という分野があり、戦争における国家の行動は規律されます。この武力紛争法(他国間の戦争において第三国がとるべき態度を定める「中立法」を含む)についてお話しします。 |
|----|---|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

お申し込みは、講座名・受講者ご本人のお名前・電話番号を、電話かメール、FAXでお知らせ下さい。

アイ・スポットまで電話・FAX・メールにて、氏名・電話番号・参加希望講座名をご連絡ください。定員に余裕がある場合は、当日入場も可能です。

予約なし  
でもOK

会社帰りにふらりとどうぞ! 申し込み不要の講座もたくさん。

|            |    |   |                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------------|----|---|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| トーク&<br>展示 | 16 | 月 | 7:00PM~<br>8:30PM | <b>「野生の共和国・淀川〜①淀川下流域の野鳥」</b><br><b>講師:菊井睦夫(野鳥写真家)</b><br>淀川には野生の多くのいきものが棲息し、そこで環境問題や教育に取り組む市民もいます。その一つ、河川敷での自然観察会などの活動を行う「淀川ネイチャークラブ」副会長で野鳥写真家でもある菊井さんに、淀川に暮らす鳥たちの様子についてお話ししていただきます。<br><b>同時開催!「淀川の鳥〜菊井睦夫写真展」 展示期間:1/16(月)〜26日(木)</b>                                                    |
| トーク        | 18 | 水 | 7:00PM~<br>9:00PM | <b>都市大阪創生研究会presents「港からみえる水都大阪」第2回／大正区探訪</b><br><b>ナビゲーター:山納洋(大阪ガス) ゲスト:松田邦雄(大正まち案内人協会・代表)</b><br>大阪のベイエリアは今でも、過去の港としての面影を色濃く残し、その文脈の上に地域の再活性化をはかる取り組みも行われつつあります。この連続ワークショップでは、大阪の港湾エリア各区について、その歴史的背景や現状に詳しい方にお話をうかがいつつ、各エリアの今後の展望を探っていきます。                                              |
| トーク        | 23 | 月 | 7:00PM~<br>9:00PM | <b>御堂筋Talkin' About vol.13「大阪リ・デザイン計画」</b><br><b>話題提供:『co-design』プロデュース塾塾生</b><br><b>ナビゲーター:生駒伸夫(生駒ビルディング)・小川清(平岡珈琲店)・山納洋(大阪ガス)</b><br>企業競争力の強化、まちづくりなど、デザインの力は多様な側面から注目されていますが、デザイナーの持つ創造性が経済や文化、地域活性化に活かされるためには、企業や行政の連携の形をうまくデザインする必要があります。大阪から素晴らしいデザインを次々に生み出すためのシクミを考えます。           |
| セミナー       | 24 | 火 | 7:00PM~<br>9:00PM | <b>船場大学淀屋橋キャンパス「被写体から学ぶ街と人」</b><br><b>講師:小西國広(「スタジオコニシ」店主)</b><br>中央区平野町で「カメラ」を通して大阪の街、風景、人、家族などを見つめ接してきたプロフェッショナルから、街での過ごし方、風景や景色の楽しみ方、街の歩き方などを学びます。講義の後には、講師と参加者全員でフリートーク&ディスカッションを予定しています。                                                                                             |
| トーク&<br>展示 | 30 | 月 | 7:00PM~<br>8:30PM | <b>「野生の共和国・淀川〜②汽水域の生きものたち」</b><br><b>講師:河合典彦(淀川環境委員会)</b><br>今からおよそ4000〜3000年前(縄文時代の後半)、現在の大阪平野は河内潟という汽水湖でした。当時の環境はどのようなものであったのでしょうか。今も淀川下流に息づくさまざまな生きものたちを通して想像することができます。自然豊かな淀川をめざして活動する「淀川環境委員会」の河合さんに、淀川下流に棲む魚やさまざまな生きものについて教えてもらいましょう。<br><b>同時開催!「淀川に棲む魚たち」 展示期間:1/27(金)〜2/5(日)</b> |

アイ・スポット 大阪市中央区今橋4-1-1 淀屋橋odona2階 TEL&FAX.06-4866-6803 E-MAIL.i-spot@voice.ocn.ne.jp

開館時間／11:00AM〜9:00PM(土・日・祝〜8:00PM) 年末年始休 地下鉄御堂筋線「淀屋橋」駅10番出口直結 京阪本線「淀屋橋」駅徒歩1分

<http://www.city.osaka.lg.jp/keikakuchousei/page/0000018184.html>



東北旅行を終えたあと、一人旅にもすっかり慣れた私は、大学2年生から3年生にかけて、あちこち小旅行を繰り返した。

2年生の10月には、鳥取砂丘へ行った。これは安部公房の『砂の女』の影響だったかもしれないが、小説を読んだのはもっとあとなので、テレビで見た勅使河原宏監督の映画『砂の女』に触発されたのかもしれない。

砂丘に着いたのはよく晴れた夕方、防砂林を過ぎると視界が一気に開け、夕陽に映えた広大な砂丘が目飛び込んできて感動したのを覚えている。美しい風紋もあり、裸足になって走りまわると気持ちよかった。

2日目は雨で、無人の砂丘をとぼとぼ歩き、そのうち時間と方向の感覚が消え、『砂の女』の主人公のような気分になった。「砂丘館」というドーム状の窓のない資料館にも行ったが、人影はなく、薄暗い展示室にキジを啜えたキツ

ネの剥製などが置いてあつて無気味だった。

翌11月には、松山の道後温泉を訪ねた。夏目漱石の『坊っちゃん』の舞台を見るためである。道後温泉は大きな神社みたいな造りで、3階建ての屋根のてっぺんに鳳凰の飾りがついていた。2階の「神の湯」へ行くと、座敷があり、そこで浴衣に着替えて1階の浴場へ下りる。湯船の中に一抱え以上もある石臼のようなものが据えてあり、そこから湯が出ていた。

壁に「湯の中で泳ぐべからず」と書いた看板があり、小説の主人公がここで泳いだ翌日に掛けられた禁令にちなんでいるのはわかるが、横に「小説『坊っちゃん』と但し書きしてあるのは興ざめだった。

夜、町をうろついていると、ストリップ劇場があつたので、胸を高鳴らせて入った。それまでストリップショーは、大学に合格したあと、予備校時代の友だちと大阪で一度見にいっただけだった。そのときは後ろの席しか空いてなくて、肝心のモノがほとんど見えず、失望した記憶しかなかった。道後温泉の劇場はさびれていて、客は数人しかいなかった。私はいわゆるかぶりつきに陣取り、踊り子さんに全神経を集中した。着物姿や宝塚歌劇のように着飾った女性が登場し、音楽に合わせて衣装を脱いでいく。私は口から心臓が飛び出そうなほど興奮したが、やはり肝心のところは見えなかった。衣装と身のこなしで、見えそうで見えない状態を続け、最後に一瞬だけ垣間見させて、舞台袖に消えるのである。じっくり見たいと思っている観客は、当然、満足できない。そうやって客を引っ張るのだなと、妙に感心しつつ納得した。

翌日は漱石が教鞭を執った松山東高校に行った。たまたまこの日は同校の文化祭で、いろいろな催しがあつた。漱石にちなむものが残って

## 中之島から青春記③ 久坂部羊

# ニッポン一人放浪記Ⅳ

## 〈鳥取砂丘・道後温泉・阿蘇草千里・神島〉



いないかと、学生や教師に質問したが、「漱石？何かあったかな」と冷淡な反応だった。考えれば、『坊っちゃん』で漱石は松山を決してよくは描いていない。だから、地元ではあまり人気がないのだなと実感した。その一方で、図書室には大江健三郎の写真が貼ってあり、「先輩！」と矢印の落書きがあった。

3回生になってすぐの4月には、阿蘇の草千里で油絵を描く旅に出た。きっかけはその年の1月に京都国立近代美術館で開かれたゴッホ展である。私はもともと絵が好きで、高校の美術の延長で自分でも油絵を描いていた。展覧会ではじめてみる実物のゴッホに感動し、中でも「ひばりのいる麦畑」には、曇り空に暖かな風を感じて、しばらく絵の前から動けなくなった。その後、夏目漱石を特集した本で、『三十日』の舞台になった新緑の草千里の写真を見て、ここをゴッホの麦畑ふうに描きたいと思ったのである。

いつも旅行に持っていた祖父譲りの革トランクのほかに、10号のキャンバスと絵具箱折りたたみのイーゼルを持って、弁天町の大阪港からフェリーに乗った。それまでの小旅行はだいたい2泊3日だったが、今回は往復夜行で4泊の旅だった。

別府からバスで草千里まで行くと、あいにく新緑には早すぎて、一面、枯れた芝色でがっかりした。それでも空がドーム状に思えるほどの

空間の広がりには感動した。さっそくイーゼルを立て、スケッチのラインを引き、キャンバスに下塗りをし、描きはじめた。あらかた色をのせ、その日は内牧温泉に泊まった。

翌日も翌々日も草千里に通って、制作を続けたが、ゴッホのように光も風も捉えることができず、途方に暮れてしまった。少し離れて絵を見直そうと数歩下がると、さつと風が吹いて、キャンバスが手前に倒れた。油絵具は水彩とちがって乾きが遅い。キャンバスを持ち上げると案の定、一面に枯れた芝が貼りついて、取り除くの半時間以上かかった。

そのあとも創作意欲は湧かず、パレットで適当に絵具を混ぜていると、オレンジ色と黄緑の混合で、きれいな黄土色になることを発見した。小学生のとき、習い事の絵の先生が、「黄土色だけは色を混ぜて作りにくい」と言っていたのを思い出し、思わず先生に教えたくなった。

しかし、制作はさっぱり進まず、結局、家に帰って仕上げようと思ったまま、ほったらかしにしてしまった。

3回生の夏休みには、三重県の神島に行った。三島由紀夫の『潮騒』の舞台を訪ねるためである。三島由紀夫の作品は、『金閣寺』や『午後』の『曳航』も好きだったが、恋愛ものの『潮騒』にも惹かれていた。特に、初江と信治がはじめて抱き合う親密の瞬間を見てみたかった。三島由紀夫がそこで何を感得したのか、知りたかったか

らだ。

近鉄電車で鳥羽まで行き、小さな連絡船で1時間ほどかけて荒海を越え到着した。周囲4キロほどの小島で、海岸線まで山が迫り、村は船着き場近くの狭い地域に固まっていた。

親密の瞬間は、旧日本陸軍が対岸の伊良湖崎から行う実弾演習の着弾点を観測する施設で、写真で見ると、箱形コンクリートの2階建のモダンな感じの廃墟だ。灯台の裏手から道なき山道を登ると、雑木と草に埋もれて、まるで南方の日本軍基地の遺跡のような建物が現れた。周囲はだれもおらず、夏の熱い陽射しだけが照りつけていた。建物の中には何も無いが、壁一面に落書きがあつて、思わず目を奪われた。

「愛と恋はどうちがうのか」「僕たちにとって結婚という言葉は禁句。僕は子どもで君は大人いつか別れが……」「私の頭の中はあなたのことでいっぱいです。どうか私の本当の気持ちをわかってください」「俺は本当に洋子が好きだ。いつか洋子という名前を聞いたなら何を思い出すだろう……」

何の装飾もないコンクリートの壁に書かれたこれらの落書きは、哀しい恋の訴えに満ちているようだった。「消さないで！」と木炭で書かれた言葉は、私の耳に叫び声のようにはっきり聞こえた。

三島由紀夫がここを愛の聖地に変えたのか、それともこの場が彼に愛の小説を書かせたのか、私は蒸るような廃墟で、茫然と考えていた。

くさかべよう 1955年生まれ。大阪大学医学部卒業。

麻酔医、外科医、在外公館での医務官としても勤務した後、2003年『廃用身』（幻冬舎文庫）でデビュー。

現代医療への提言と生きること・死ぬことについて考える契機に満ちた作風が人気を呼び『破裂』は10万部を超えるヒットに。

「先月5日の『読書会』は大勢の方に来ていただき、ありがとうございました。

ゲストの仲野徹・阪大医学部病理教授は同級生で、つい学生時代と同じノリではしゃいでしまいました。

内輪ネタで盛り上がってしまい、すみませんでした」

今

回から、「人生死ぬまで勉強だ！」的な島民のための、お得かつ楽しい「会員」になれるスポットをご紹介します。まずは中之島の真ん中とも言える渡辺橋南西にそびえるランドマーク、朝日新聞ビル5階に位置する朝日カルチャーセンターだ。昭和49年（1974）に朝日新聞の後援によって設立された「成人教育機関」で、全国14都市に教室が置かれている老舗的存在。なんと6000あまりの講座が置かれているそうだ。

3ヶ月ごとの期によってまちまちではあるが、ほぼ450講座ほどが常開催されている中之島教室は、全国でも大規模な存在だ。「中之島教室の特色として、考古学や古代史の講師の先生が充実していて人気なんです」と講座担当の森本さん。平日昼間に開かれる壮年層を狙った講座が大人気だと、また夜の時間帯には、ビジネスマンやOLを対象とした語学系講座や、各大学との提携講座などを多数開講。その立地の良さから仕事帰りにもうひと勉強、という島民たちにも根強い人気を誇っている。

さて、会員になるとどのような特典があるのだろうか。3年間にわたって会員価格で各講座が受講できるほか、旅行や買い物での割引サービス

続・中之島に「入会」しませんか？

## 「会員」のススメ。

取材・文／石原 卓（本誌）



サロンスペースは受講者たちの憩いの場。お昼時にはおばさま方の趣味談義に花が咲く。実は会員でなくても利用できるのですが、ちょっとお茶しに来てみては。受講生の作品があちこちに飾られるのも、やる気を盛り上げる演出の一つか。



## 朝日カルチャーセンター 中之島教室

各種割引もありがたいけれど、何より嬉しい「教室は、名建築」。

### 朝日カルチャーセンター 中之島教室

入会金は5,250円。教室の受付窓口ほか、インターネットからでも手続き可能。会員資格は原則として3年間有効で、継続する場合は、更新料1,050円が必要。シルバー割引、学生割引などもあり。会員でなくても受講できる公開講座なども多い。2013年からは、中之島フェスティバルタワーにて新装開店の予定。  
☎06-6222-5222  
<http://www.asahiculture.com/nakanoshima/>

などが受けられるのも嬉しいところ。そして何より、あの朝日新聞ビルに、用事ができるのである。凛々しい警備員にも「どもっ！」って挨拶してもらえるのは気持ちいいのだ。

かつてこの中之島教室の「彩墨画教室」に通った経験のある筆者。好立地で通いやすく、また設備の整った各教室は、まさに手ぶらのまま勉強できる好環境。また会員や受講生たちのためのサロンでは、その他の講座や特別講座の案内チラシを手に取り取ることができて、未知の向学心だつてむくむくと湧いてくるのを感じたのである。

「会員以外の方にも自由に受講していただける特別講座も、話題性のあるものを常に企画していますから、気軽にお立ち寄りください」と森本さん。

シマのど真ん中で、知的好奇心を存分に満たしてくれる「朝カル」は、用がなくてもふらりと訪れるべき知的エンタテインメントスペースだ。



昭和6年（1931）に完成し、80年を経た今も現役の朝日ビルは、当時専門家たちの間に衝撃をもって迎えられた。関西を代表する建築家や都市計画家たちによる座談会では、「日本中

での最もセンセーショナルな建物」と評された。そのくらい衝撃的で、前衛的だったのだ。

朝日新聞社は創刊50周年を記念して、社屋拡張のための新ビルを計画した。本館と朝日会館に挟まれた街区の北東角、大阪ガスが所有していた土地を、朝日新聞社が御堂筋に所有していた土地と交換して敷地を確保。ちなみに御堂筋に移転した大阪ガスは昭和8年（1933）、建築家・安井武雄の設計によって大阪ガスを建てる。登録有形文化財に指定されている名建築だ。

この時代、著名な企業が歴史に名を残す建築を競って建てた。

新しい時代を切り開くためには、若い感性とエネルギーが必要だ。朝日ビルの計画を機に創立された（株）朝日ビルディングの初代社長に就任した村

#### 第四話

## 最もセンセーショナルと言われたビル。



左に朝日新聞社本館（1916年竣工）、右に朝日会館（1926年）を従えてそびえる竣工当時の朝日ビル。右手奥には最近惜しくも解体されたダイビル（1925年）が見える。

都市美を  
伝えて  
朝日新聞と  
中之島の130年  
取材文／高岡伸一

山長拳は、ビル完成時に37歳。設計を担当した竹中工務店の石川純一郎は34歳。石川は欧米諸国を視察し、世界の息吹に触れて朝日ビルの設計に取りかった。世間をアツと言わせる新奇性は村山の望むところであり、新聞というメディアの先進性を建築で表現したいとも考えただろう。

これまでの建築とは異なっていた一切の装飾を排し、幾何学的な線だけで構成したシャープなデザイン、ステンレスやスパーアルミニウムなど、当時珍しかった金属を外装に用いた大胆な素材の使い方。強調された水平線と垂直線にはブリズムガラスによる照明を仕込み、夜になると光り輝く抽象画が浮かび上がった。ビルの高さは当時の法律で定められていた100尺（31m）を特例によって突破し、屋上には日本初となる航空標識塔、空の灯台が設けられた。その姿はまるで巨大な船のようだ。

現在、朝日ビルは主にオフィスとして使われているが、当時は2階に高級

店による専門店街、5階には隣の朝日会館と連絡通路で繋がったバーラーがあった。最上階の10階には、大きくカーブを描く大ガラスに面してレストラン・アラスカが入り、眼下に市街地を眺めながら洋食を楽しむことができた。屋上に設けられたアイスクリーム場は、地上にまで行列が続くほどの人気ぶりだったという。現在は形が変わってしまったが、1階のエントランスはまるでニューヨークにある劇場のように煌びやかだ。中間階には空調など最新設備を備えた貸室が並び、テナントのための談話室やトレーニングジムを備えたABC（朝日ビルクラブ）という倶楽部まであった。

朝日ビルは誰もが憧れる都会のライフスタイルそのものだった。80年を経て使われ方は変わっても、そのモダンなデザインは全く色褪せることがない。



NAKANOSHIMA  
FESTIVAL TOWER  
中之島フェスティバルタワー

提供／株式会社 朝日ビルディング  
<http://www.asahi.com/festivaltower/>

# トウニン月報

2012年1月1日発行

草間彌生展が中之島にやって来る!



草間彌生 《果てしない人間の一生》2010  
©YAYOI KUSAMA STUDIO Inc., Courtesy of OTA FINE ARTS.



草間彌生 《花咲けるニューヨーク [OPRT]》2005  
©YAYOI KUSAMA STUDIO Inc., Courtesy of OTA FINE ARTS.

## 草間彌生 永遠の永遠の永遠

期間／2012年1月7日(土)～  
4月8日(日)  
時間／10:00AM～5:00PM  
(金曜～7:00PM、  
入館は閉館の30分前まで)  
休館日／月曜日 ※1月9日(月・祝)  
は開館、1月10日(火)は休館  
入場料／1,400円 ※1月6日(金)  
まで前売り(1,200円)を販売



©YAYOI KUSAMA

### ●チケットをプレゼント!

月刊島民の読者5組10名様に、草間彌生展のチケットをプレゼントします。住所・氏名・お電話番号・本誌への感想をお書き添えのうえ、月刊島民プレスまでハガキもしくはファックスでお送りください。宛先などはP23に記載。1月31日必着。なお、当選は発送をもって代えさせていただきます。

る展覧会となりそうだ。  
展覧会と連動したイベントも見逃せない。1月14日(土)には学会員によるソクチャイが行われるほか、1月28日(土)・3月3日(土)には、2008年に公開された映画『草間彌生 わたし大好き』が上映される。(大迫力・本誌)



### アートエリアB1 ミュージックカフェ

日時／1月27日(金)  
1:30PM～(1時間程度)  
定員／50名程度  
※入退場自由、  
小学生未満の子供の同伴も可能  
(ベビーカーでの入場可)  
入場料／無料  
問い合わせ／  
日本センチュリー交響楽団楽員会  
☎090-7309-5964

島民にはおなじみの、京阪電車中之島線なにわ橋駅地下1階の「アートエリアB1」で、毎月1回開かれるクラシックコンサートがスタートした。大阪に拠点を置く日本センチュリー交響楽団とコラボレーションしたもので、毎回のテーマに沿って編成や楽曲を変えて開催。誰でも気軽に足を運べる無料のコンサートというのも嬉しいところ。

初心者や、ホールでの本格的なコンサートへ行くにはちょっと勇気がいる...という人にはぴったりだ。毎月開催されるので、中之島散策と一緒に楽しみたい。(大迫力・本誌)



アートエリアB1で  
毎月開催!  
ミュージックカフェ

第1回目となった昨年12月24日のクリスマススイートに行われたコンサートでは、トロンボーンとチューバとパーカッションのアンサンブルが登場。パリのメトロのように、音楽が駅にあふれた。早くも第2回目となる1月27日には、弦楽四重奏が登場。クラシック





昨年末に行われたエントランスホールを使った屋台&音楽ライブイベントも好評だった。

**中之島ダイビル  
@ほーむ寄席**  
日時／1月28日(土)  
5:00PM～  
入場料／無料  
<http://www.nakanoshimadaiburu.com/>  
<http://www.keep-on-action.com/>

地元島民向けイベントに力を入れているダイビルが、今度は吉本興業とタッグを組み、お笑い芸人のライブを行う寄席をスタートする。

今年で100周年を迎える吉本興業では、「@ほーむ寄席」として、今まで劇場に足を運んでくれたお客さんの地元や生活圏内に向き、日常の中で落語や漫才などを楽しんでもらいたいというプロジェクトを進行中。

## 中之島ダイビルが お笑い寄席になる

今回そのイベントが中之島ダイビルにやってくるようになった。1階エントランスホールに造られる特設ステージにて、お笑い芸人がネタライブを繰り広げる。1月から1年間、毎月1回開催されるというのが島民にとってはお楽しみどころだ。

初回は「ウーマンラッシュアワー」「銀シャリ」などの芸人4組がそれぞれネタを披露する予定。また今回はチャリティー



銀シャリ

ウーマンラッシュアワー

大阪21世紀協会による「アート・アセンブリー2011」が、去る11月18日に堂島浜のクラブ関西で行われた。アート・アセンブリーは音楽や演劇などにおける人材育成を目的としたもので、大阪・関西を拠点に活動する優れたアーティストに発表の機会をつく

## アーティストを囲む交流の場、 アート・アセンブリー2011

るとともに、新たな出会いの中で活動の可能性を広げるために、経済界やマスコミ関係者などとの交流の場を提供している。

この日は2011年度大阪文化祭賞グランプリを受賞した大阪コレgium・ムジクムと、大阪文化祭賞を受賞した

毎年恒例、大阪の街を駆け抜ける大阪国際女子マラソンが、1月29日午後0時10分スタートする。オリンピックイ



アッパダウンが少なく、好記録が出やすいことから、誰がどんなレースをするのか注目される。今年のレースにはアテネオリンピックの金メダリ

## 1月29日号砲！ 大阪国際女子マラソン



**第31回大阪国際女子マラソン**  
スタート&ゴール地点である長居陸上競技場の正面広場では、当日、雪遊びができるスポットや、足湯、グルメコーナーなどのイベントも開催される。  
日時／1月29日(日)0:10PMスタート  
<http://www.osaka-marathon.jp/>

スト・野口みずき選手が出場を表明しており、その他の有力選手の動向によって駆け引きも面白い展開が予想される。

レースの前半では、島民でおなじみのスポットも登場する。大阪城公園や中之島の中央公会堂前、そして大阪市役

所の前を通って御堂筋へ。大阪のど真ん中を疾走する姿は見応えたっぷり。全国的にマラソンがブームになる中、治道へ応援に繰り出すのも良いだろう。(大迫力・本誌)



大蔵流狂言方の善竹隆司・善竹隆平を招いての公演が行われた。狂言の「口真似」を披露した善竹兄弟に続き、大阪コレgium・ムジクムが合唱を披露した。

その後に行われた交流会ではアーティストと参加者たちが語り合い、和やかな雰囲気の中閉幕となった。(大迫力・本誌)



# 京阪沿線 島民の部屋から。

取材文／狩野哲也  
写真／李宗和



**Data** 築30年のマンション。「大川の気持ちいい風を部屋に入れたい(美幸さん)」と、畳の和室2つとリビングの間の襖を外し、寝室の西窓とリビングの南窓を開けて風の通り道をつくって新鮮な空気を入れるようにしているそう。川が視界に入るよう、パソコンの机も窓に面して置かれている。

なるべくふたりが近い距離で話せるような空間が良いと考えて40平米の広さを選んだ。夜は天神橋がライトアップされ、景色がきれいに見えるようわざと窓の網戸を外しているそう。



青森と大阪の遠距離恋愛をしていたという笹尾夫妻。現在、和宏さんは建設会社に勤める傍ら、水都OSAKA・水辺のまち再生プロジェクトメンバーとしても活躍中。  
<http://www.suito-osaka.net/>

独身時代の和宏さんは心齋橋の事務所ビルの最上階に住んでいた。下の階以降はすべて会社。夜になれば飲食店のキラキラネオンが街を包むような場所で「洋服から『ビル』の匂いがしていたんですよ（笑）」と語る美幸さん。青森県で生まれ育った美幸さんは、二人で一緒に住むところについて、部屋の広さや築年数はこだわらないけれど、自転車圏内にスーパーマーケットがあるとどこに住みたいとオーダーした。そして選んだ場所は天満橋。大川にかかる天満橋の南側はにぎやかなオフィス街だが北側は落ち着いた街だ。職場にも近く、なにより和宏さんの「自然豊かな川沿いで、環境に恵まれながらも、限りなく都心に近い場所に住みたかった」という思いともびつたりの場所だった。スーパーマーケットも界限に多く、天神橋筋商店街も近いのがうれしい。美幸さんは住んで間もなく、京阪シティモール地下食品売り場の青果店を気に入った。

和宏さんは北浜にある会社にお勤め。昼休みに美幸さんがつくるお弁当を持って中之島の水辺を眺めながらご飯を食べるといふほどの水辺好きであり、自宅の南窓に広がる絵画のような景色を気に入っている。水辺を横切る船、空をホバリングするカモメ。大川の水面を照らす光が部屋の白壁に反射していくつもの模様をつくりだす。



左／涼しい時期はベランダに出て食事を楽しむそう。右／細長いテーブルをベランダ側に寄せればバーカウンタに早変わり。「向かいのOMMビルのガラスが鏡になっているので空の景色を映し出していてきれいですよ」と笹尾夫妻は声を揃える。



## 天満橋 橋を渡ることでおん／オフが切り替わる、 水辺のある暮らし。

笹尾和宏さん・美幸さん

和宏さんの職場は北浜にあり「大川を渡って南側に渡ると仕事のスイッチを入れなければいけない感じがするんです。なるべく家にいる気分を長く楽しむために、朝は北浜側の天神橋を渡り、夜は天満橋を渡って帰っている」と橋を渡ることでおん／オフ切り替わる暮らしに自然となっていたそうだ。夜な夜な飲食店での交遊を満喫している（!?）という和宏さんの習慣から、2人が一緒に過ごす大事な時間は朝食の時間なのだそうです。「朝から麻婆豆腐や酢豚をもりもり食べていますよ」（和

宏さん）。

休みの日は大川で水上バイクを楽しむこともあるそう。「ゴムボートをレンタルして、お茶とおにぎりを用意して、帝国ホテル前のふれあいの岸辺からゴムボートの空気を入れて、八軒家浜までぶかぶかと流れに任せて川下りをしたんですが、これが気持ちいい！」（美幸さん）。天満橋に住まいを得た2人は、水を得た魚のように水辺ライフを楽しんでいるようだ。

### うちの近所のお気に入り。



#### 京阪シティモール

天満橋交差点北西角の京阪天満橋駅ビル内に2005年オープン。隣の大坂キャッスルホテルや八軒家浜の船着き場とも直結している。美幸さんがオススメの店舗は地下2階食品売り場の九州屋。「自宅から徒歩で行けて品揃えがよく、安くて新鮮」とのこと。営業時間に間に合えば野菜は必ずこちらで購入しているそう。4階には無印良品があり、歩いて買いに行ける家具屋として重宝しているのだとか。詳細は<http://www.citymall.jp/>



和室の壁は極力物を置かないようにし、プロジェクターのスクリーンとして活用できるよう工夫している。

# ナカノシマニア

取材文／狩野哲也

## 玉

江橋南詰のマンション1階に、おそらく中之島の歴史上初であろう釣り竿のショールーム「ダイコー フィッシング タックルギャラリー」がオープンした。大丸興業は食品から電子部品まで扱う大丸松阪屋百貨店のグループ企業であり、ダイコーという釣り竿ブランドを展開する老舗メーカーでもある。

「弊社の釣具事業が60周年を迎えたのをきっかけに、『釣り具業界で釣りのショールームは聞いたことがないのでやってみたら面白いのでは?』とうちの社長が言い出したのが発端です」と語るのは企画開発担当の松本太郎さん。どうせなら大阪のマンハッタンであり、ますます発展していきそうな中之島でやればインパクトがあると考え、オープンに至ったそうだ。

ショールームの一番のこだわりは釣り竿の豊富なバリエーションにある。「弊社の釣竿は350種類以上あり、価格帯も1万8000円から15万円以上のものでありますので、すべての商品を釣具店さんにおいてもらうのは難しいんです。当ギャラリーではフルラインナップの商品をお手にとつていただけるのが自慢です」。4ヶ月前に



右／釣り竿の先端を天井のクッションスペースに当てて、魚が掛かった際のしなり具合を試すことができる。左／商品企画、広報などを担当する松本太郎さん。釣り雑誌や釣り番組に出演することもあるとか。

# 釣り好きが注目する ギャラリーができた。

オープンしたところだが、遠方からの来客も多く、西は九州、東は宮城県の方が観光のついでではなく、このお店に来るために夜行バスに乗って来たこともあるそう。

## 中

之島にショールームを開いたことで、思わぬ効果もあったという。「釣りが趣味という方以外にも、中之島界隈のサラリーマンの方や、その界隈の企業への出張のついでにふら

りと立ち寄ってくださる方もいらつしやいます。お話しているうちに『子どもの頃以来釣りをしていないけれど、久しぶりにやってみようか』と言ってくださる方もおられて嬉しいですよ」と新しい客層へのアプローチもばっちりというのだ。

今のところ本来の業務に支障がでない範囲で事業をはじめたということもあり、営業時間は火・水・木曜の11時

から15時と、オープンしている時間は限られている。松本さんたちスタッフの時間を削り、受付は開館時間に合わせ女性社員が本社からやってくるという。しかし、仕事終わりにも寄りたい、休日にゆっくり見たいという声もあるそうで、今年からは人員を増やすことも視野に入れている。中之島の船着き場から船に乗って釣りに出かける風景が生まれる日が待ち遠しい。

## ダイコー フィッシング タックルギャラリー

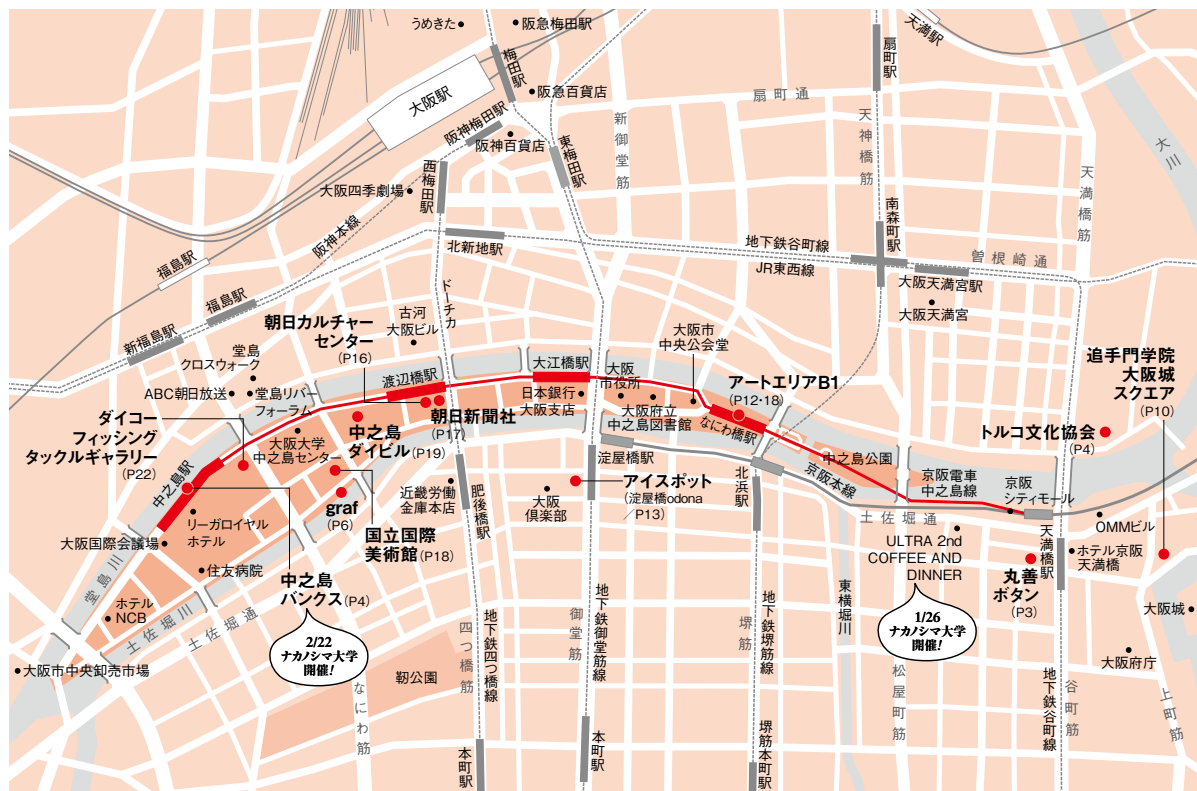
☎06-6446-1037  
11:00AM~3:00PM(火・水・木曜のみ)  
<http://www.f-daiko.com/>





# 大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、  
みんな「島民」です！



## 『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅/京阪シティモール/京阪モール/デリスタ天満橋店/ホテル京阪天満橋/ホテル京阪京橋
- 大阪市北区・中央区・福島区 〔書店〕旭屋書店 梅田地下街店/旭屋書店 堂島地下街店/カベラ書店/紀伊国屋書店 本町店/ジュンク堂書店 大田本店/ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店/ジュンク堂書店 天満橋店/ MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店/スタンダードブックスストア/天牛塚書店 大江橋店/ブックファースト 梅田店/ブックファースト 淀屋橋店/文教堂書店 淀屋橋店/隆祥館書店 〔公共施設・大学関連施設など〕アイスポット/朝日カルチャーセンター/味の素 食のライブラリー/ ABC朝日放送/大阪企業家ミュージアム/大阪倶楽部/大阪工業技術専門学校/大阪国際会議場/大阪市社会福祉研修・情報センター/大阪市中央公会堂/大阪市立中央図書館/大阪市役所市民情報プラザ/大阪城天守閣/大阪商工会議所/大阪大学中之島センター/大阪21世紀協会/大阪府立中之島図書館/大阪フィルハーモニー会館/大阪ボランティア協会/大阪歴史博物館/追手門学院 大阪城スクエア/関西学院大学 大阪梅田キャンパス/慶應大阪リバーサイドキャンパス/国立国際美術館/ CITY NAIL'S インターナショナルスクール/芝川ビル/市立住まい情報センター/中央電気倶楽部/ホテルNCB/メック厨町
- 〔店舗・医院など〕アリアラスカ マーブルトレ/アンドール 本町本店/上町貸自転車/ Ultra 2nd /江戸前鰻料理 志津可/ EXPO CAFE / MJB珈琲店/大西洋服店/ OOO (オー) /カセツ/喫茶センター/喫茶SAWA /グランドスイート中之島/ 黒門さかえ/ コモンカフェ/サトウ花店 中之島本店/サ・メロディ/じろう亭/ Grond's JR /心斎橋山田兄弟歯科/住友病院/セブンイレブン大阪証券取引所店/タビエスタイル/ティーハウスジカ/たまがわ鍼灸整骨院/東郷歯科医院/ NAKAGAWA1948 淀屋橋店/ナンジャノ/バスターレー/花かつ/ BAR THE TIME 天神/平岡珈琲店/ビルマニアカフェ/フレイルハウス/ミニジロー/宮崎歯科/やきとり ばかや/吉田理容所/ラ・クッカーニヤ/ LES LESTON
- 大阪市内その他 〔書店〕伊勢屋書店/大阪書店/紀伊国屋書店 京橋店/なんばミヤタ/福島書店/柳々堂/ルール書店 〔公共施設・大学関連施設など〕大阪市社会福祉研修・情報センター/大阪市立図書館 〔店舗・医院など〕あじさい/アートアンドクラフト/欧風食堂 ミリパール/大阪市信用金庫 江戸堀支店/御船かもめ/ Calo Bookshop and cafe /写真とプリント社/鳥かごキッチン/ネイルサロン スワンナ/バルビコ/ホステル64オオサカ/ MANGUEIRA / Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店/学運堂 フレスト店/ Books 呼文堂/水嶋書房 千早店/水嶋書房 千早駅前店/大阪狭山市立図書館/大阪大学企画部広報/社会学連携事務局/大阪大学 21世紀健康堂/大阪大学本部/寝屋川市役所/摂南大学 地域連携センター/郵政考古学会/ゆったりんこ
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 新宿店/ジュンク堂書店 西宮店/水嶋書房 丹波橋店/伊丹市文化振興財団/大手通りストリートギャラリー 街・発信/納屋工房/タバーン・シン普森/百練/奈良県立図書館情報館

## ◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

## ◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

## 次号予告 ハカセの系譜。

湯川秀樹に手塚治虫、科学や医学にまつわる人物と実は縁深い中之島。  
その系譜は、緒方洪庵ら江戸時代の町人学者までさかのぼることができる。

●『月刊島民』vol.43は2012年2月1日発行です！

編集・発行人/江 弘毅(編集集団140B)  
編集・発行/月刊島民プレス  
若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)  
松本 創 大迫 力(編集集団140B)  
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階  
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341  
制作進行/堀西 賢(ALEGRESOL)  
デザイン/山崎慎太郎  
表紙イラスト/奈路道程  
印刷/佐川印刷株式会社



世界がうらやむ、  
おでかけです。

楠葉けい子(大学生) 銀閣寺

# おけいはんと、17の世界遺産。

京阪電車から、京の世界文化遺産をめぐる旅へ。



京阪出町柳(出町柳駅前バス停)

清水寺 下鴨神社 上賀茂神社 金閣寺 銀閣寺  
東寺 西本願寺 二条城 仁和寺 比叡山延暦寺  
宇治上神社 平等院 醍醐寺 龍安寺 天龍寺  
西芳寺 高山寺

17の世界遺産、見どころ紹介!



京阪電車主要駅で  
パンフレットを  
配布中!!

① 京阪の  
おけいはん。

www.okelhan.net